



埼玉支部報 第8号

目次		本部から三百名山取材の依頼		8
第3回新年懇談会を開催 (斉藤知茂)	1	平成26年度全国支部懇談会実施概要(案)		8
高山不動尊の参詣道・四寸道に行く (松本敏夫)	2	自然保護シンポジウム実施		8
ブータントレッキング2012 (富樫信樹)	5	埼玉支部平成25年度年間行事計画(案)		9
忘年山行報告	7	委員会状況/同好会状況		10
50山ラリー実施状況	7	会員/会友異動状況		10

第3回新年懇談会を開催

斉藤知茂



第3回新年懇談会が1月5日(土)11時30分から、昨年と同じ会場の大宮駅近くにある「介」で、出席者26名(内女性4名)で実施された。開会に先立ち、プロカメラマンの向田会員により、記念撮影が行われた。

まず、大久保支部長から年頭のあいさつがあり、その中で、支部会員の増加対策、支部の安全登山、26年度埼玉支部が主管する予定の「全国支部懇談会」への対応等、埼玉支部の運営方針と具体策について、静かながら決意のほどを熱く語った。

続いて野村副支部長の音頭で乾杯し、日本食のコース料理とアルコール類飲み放題で、懇談の宴が始まった。

懇談をしながら、各委員会からの、昨年度の数々の実績報告、先の大久保支部長の方針をうけての今後の各委員会の具体的計画等、盛りだくさんの内容が発表された。更に、埼玉支部の名物同好会となった「陸地測量部」の藤野会長が、ハッピーをまとった会員と共に、楽しい活動状況を披露した。また、久しぶりに姿を見せてくれた会員、初参加の会員等の紹介もあった。

進行スケジュールが一通り終了し、富樫事務局長が用意した「山の歌集」をもとに、即席コーラスグループが誕生し、それぞれ自慢の喉を競い合った。

そうこうしているうちに、あっという間に3時間が経過し、富樫事務局長の一本締めで楽しくも有意義な新年懇談会が幕を閉じた。その後、一同揃って武蔵一宮「大宮氷川神社」に初詣、安全登山祈願のお札を頂き、神主に全員お祓いを受けた。

日本山岳会埼玉支部は、こうして大きな希望と決意を抱き、すがすがしく2013年のスタートを切った。



委員会・同好会の状況・抱負



山の歌を合唱



氷川神社本殿での安全登山祈願

高山不動尊への参詣道・四寸道を行く

松本敏夫

越生駅から川越観光バス「黒山」行きで、上大満バス停で下車した。車道を挟んだ向かい側が龍穩寺の入口である。黒山方向に進むと間もなく右側にコンクリートの階段（5～6段）があり、かなり奥に古びた建物が見える。入口に道標はなく、地図で下ヶ戸（さげど）薬師堂の場所を確認してなければ見逃すところであった。堂へ登る石段の右前に「下ヶ戸薬師堂」の標識があり、左手には江戸時代の石灯籠が一基残されていた。下ヶ戸の地名は懺悔堂（ざんげどう）または高山不動の山下堂（さんげどう）に由来するものと推測されている。薬師堂は黒山熊野神社（聖護院本山派修験二十七先達の一つに数えられた越生山本坊のあった場所？）の本地仏とも伝えられる木造薬師如来立像と下ヶ戸薬師十二神将像で知られている。かつて、四寸道（しすんみち）は下ヶ戸薬師堂を起点として横吹峠や七曲峠を経て、高山不動尊やその奥の院があった関八州見晴台へと続く表参道（高山街道）であったと云われている。薬師堂の裏には幅の広いよく歩かれた道跡が続いていたが、現在この奥は採石場となり通行不可とのことで車道に戻った。



下ヶ戸薬師堂



薬師堂の石灯籠



薬師堂裏の四寸道跡

「新編武蔵風土記稿」に「入間郡 越生郷 龍ヶ谷（たつがや）村 村内に秩父郡高山村へ通う道あり、これを四寸道とよぶ、その幅狭くして馬の通はざるほどなる故、此名あるべし」と記載されている。四寸道は吉野大峯山の四寸岩山から名づけられたようで、森沢義信著「大峯奥駆道 七十五靡」の「四寸岩山」には、「道幅が岩と岩との間四寸しかないところを歩いてきたという四寸岩山のいわれを指しているのである。現在でも山頂の登山道の傍らに、これが四寸岩と言われる二つの白い岩がある。」と記載があり、本山派修験山本坊と共に吉野修験との関連も推測される。一方、立石寺（山寺）にも千年以上も前から、大きな二つの岩に両側から挟まれた四寸道が知られ、どちらも修行の道であることに変わりはない。

火の見下バス停の北ヶ谷戸橋で越辺川を渡り、龍穩寺への道標に従い右折や左折を繰り返す、程なく両側を樹林に囲まれた薄暗い横吹峠に着いた。定番の標識は無いが、登山道入口左にはヒノキの大木に巻きつけられた「四寸道：黒山三滝・横吹峠・龍穩寺」の白い小さなプレートがあり、地面を這うような低い位置に赤い「越生駒ヶ

岳」の標識が右側にあった。峠道の反対側には地蔵尊と思われる二基の石仏が隠れるように置かれ、歴史を重ねた旧道であることを確認できる。石仏の下部には「さげど」の文字が判読でき、道祖神の役割も担っていたものと思われた。



横吹峠・四寸道



横吹峠・越生駒ヶ岳の標識



横吹峠の石仏

四寸道の入口は急坂で赤土が雨に流されて(バイクの轍の可能性も?) 抉られた状況であったが、その後は雑木林とヒノキの植林に覆われた道幅約2m弱の明るく緩やかな登山道であった。山腹の南側を巻き終わると越生駒ヶ岳への分岐と標識がある。踏み跡の明瞭な道に戻るように5分程登ると雑木林に覆われた山頂に至り、越生駒ヶ岳のプレートと国地院と彫られた四等三角点(369.0m)がひっそりと設置されている。木に巻きつけられた「駒ヶ岳ファンクラブ」のかわいい白馬のチラシに送られて四寸道の分岐に戻る。



駒ヶ岳ファンクラブ

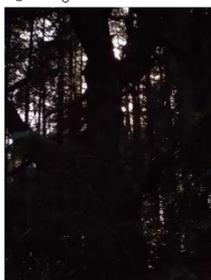


越生駒ヶ岳・四等三角点



越生駒ヶ岳山頂

稜線を西に進むと右に急登の分岐があり稜線まで登って見たが下り始めたので引き返した。龍穩寺へ続く道であろうか未確認である。永年の風雨に道が破壊され、登山者が少ないためか倒木が道を遮ったまま放置された箇所も頻繁であった。足元に注意しながら植林帯の緩やかな登りを進むと、左手の薄暗い樹林の中に異様な樹形の巨木が一本だけ聳えていて不気味ささえ感じられた。その先で明確の登山道が左へ分岐していたが、時間の都合で今回は未確認である。前方が開けてきて少し下ると猿岩林道であった。尾根上の分岐で見通しも良いがここにも標識は全くない。



巨木



猿岩林道



林道から四寸道入口の分岐

林道を右に数分進むと左側の小枝にビニールテープが付けられた四寸道入口が確認できる。標識は何もないので注意が必要である。入口は両側から灌木が覆いかぶさりヤブっぽさを感じるが、数mも進むと四寸道の幅の広い道に戻った。なだらかな登り下りを繰り返して、また猿岩林道にでた。向かい側の尾根はブロックの石垣になっていて取り付けそうもない。



四寸道のヒノキ植林帯

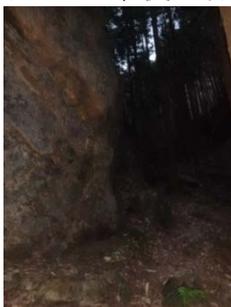


猿岩林道



林道から四寸道への入口

林道を左手(花立松ノ峠方面)に約10分歩いて、林道が南から東へ鋭くカーブする右側の谷筋に、赤や黄色のビニールテープの結ばれた枝があり、四寸道の分岐である。入口近くは薄暗く左側に巨大な岩が何列にも重なって壁となっていた。かつての修験者達はこれらの岩壁に「隠れ不動」を感得したようである。岩の裾を回るように道が付けられていて、奥の岩の上に修験者によって祀られたとされる石仏(馬頭観音)があった。



巨大な岩



石仏(馬頭観音)



七曲峠

四寸道は所どころ植林された木の幹にビニールテープが巻かれていて、ジグザグの急登で道幅は狭いが、ルートに迷うところはない。道が緩やかになると道幅が四寸道本来の広さに戻り、間もなく関八州見晴台へと続く稜線上の七曲峠にでた。ここには、「関八州見晴台へ至る・黒山三滝・顔振峠へ至る」の丸太の標識はあるが、「七曲峠」の地名は記載されていない。馬頭観音が庚申塔が置かれていると歴史ある峠として、一段と印象深くなるはずである。神山弘・新井良輔共著の「増補ものがたり奥武蔵」に「わずか四寸の道を牛が通ったと聞いて、何と身軽な牛だろうと不思議に思い、山仕事の人に四寸道のありかを聞いたところ、今通ってきた岩がある所だという。そこには平らな大岩が二つに割れて、その割れ目が約四寸となっている。これが四寸道の名の起りこりであった。」との記載があるが、残念ながらこの四寸の割れ目は確認できなかった。

稜線の急坂を一気に登ると関八州見晴台である。数十人もの幼稚園児が家族と共に休憩していて賑やかであった。5月にはツツジが一面に咲き誇る見晴らしの良い山頂であるが、冬は武甲山や両神山を始め、富士山、大岳、日光連山等が一望できる。ここは高山不動尊の奥の院があった場所で、山頂の小さな堂内には不動明王を中心に五大明王が祀られていた。



関八州見晴台・山頂



武甲山と両神山



常楽院不動堂

高山不動尊は高貴山常楽院といい、白雉5(654)年、藤原鎌足の第二子長覚坊上人が東国鎮護のため創建したと伝えられる。また、関東三大不動の一つに数えられ、山伏の修験場として栄え、36坊を数える大規模な寺院であった。

高山不動尊から西武秩父線へは、白滝や大滝で神秘的なパワーを感じながら、高畑林道経由で西吾野駅に帰着した。

コースタイム：越生駅(8:20)ー横吹峠(9:50)ー越生駒ヶ岳(10:18)ー猿岩林道(10:45)ー七曲峠(11:44)ー高山不動尊(13:00)ー西吾野駅(14:44) (平成25年1月12日)



大滝



奥武蔵・秩父(山と高原地図:昭文社)

ブータントレッキング2012 報告

富樫信樹

埼玉支部設立3周年記念事業として計画していた東チベット踏査隊の派遣はチベット及び中国の地域事情により外国人の入域が認められず計



画の遂行が困難になり、8月30日に今年の計画を中止し、予定していた遠征の期間を他地域で遠征の経験を得るため、いくつかの候補の中からブータン王国のチョモラリトレッキングルートへと変更を図った。

10月25日に出発してパロからチョモラリのベースキャンプ4,090mの往復のトレッキングと5,000m 峰のチャレンジをして11月7日に帰国しました。

メンバーは支部員7名と会友2名他1名の10名ですが、6名が70歳以上で平均年齢が67.6歳の高齢者集団でした。そのため、事前に高山病対策として金子医師による勉強会、高度順化のための高所訓練を実施し、トレッキング中のパルオキシメーター、血圧計によるチェックを毎日朝夕に記録し、各個人の体調の報告と合わせて安全登山を目指しました。

●10月25日～26日 出国からパロでのトレッキング準備

成田を出てバンコクで宿泊して、翌日のドルックエア KB129便は04:45テイクオフ。ブータンに近づく



くと左前方にブータンのチョモラリとその先にカンチェンジュンガが朝日に輝いて見える。高度を下げ山間の山をかすめてパロ空港(2,230m)に着陸する。

出迎えガイドのカルゲーとパロ市内のレストランで打ち合わせを行い、田尻さんの提案の高度順化のためにチェリ・ラ峠(3,780m)にバスで登ることを決め出発する。峠ではエーデルワイスやゲンチアナの咲く小道を30分登ると遠く白いカンチェンジュンガを見るが、肝心のチョモラリは雲の中で時折頂上部らしき峰が見える。

●10月27日～11月3日までのトレッキング

朝食前に血圧とパルオキシメーターの測定を行ってから、バスにトレッキングの荷物を積んで8:30にホテルを出発する。1車線分しか舗装していない道でドウケゾンに着く。さらに狭い道に入り40分ほどでチェックポスト (2,670m)

に到着する。徒歩の時間が4時間は短縮した。広場には馬方と馬が17頭が待ち構えており、我々の荷物やトレッキングの食料・装備を馬の背につけ始める。チェックポストで我々の入域のチェックを済ませ10:40にトレッキングを開始する。



初日 コースはロバや村人が歩く狭い道をロバのフンを踏まないよう、周りの景色を楽しみながら11:25に当初予定していたテント地のシャナサンボ(2,780m)に到着する。今日はさらに先に進む。道中はるか山の先にチョモラリが見えるパロチュー沿いの道は落葉の中



を歩き少しずつ高度を上げている。15:10にシンカナラップ(3,055m)に到着する。ここが今夜のテント場である。テントは2人用で5張りトイレテントが2張り張ってある。

2日目 8:30に出発し、左手に石畳の立派な道があり、ここがチベットに行くトレモラ分岐点である。まだ、チベットに行くブータン人はいるとの説明であった。シャクナゲがあらわれ、パロチューの橋を渡って左岸の道に行く。海拔は3,345mが表示されているが直径1.2mのモミの巨木がある。



今夜の宿泊地のソイタンタンカは3,500mで、テント場は周辺を柵で囲っていかにもテント場で多くのトレッキングの外人が集まっている。

3日目 ならかのトレッキングコースが続き、パロチュー沿いに道は続いている。途中数軒の農家が点在している。冬の間のヤクの飼育のためか2階には干し草が見える。

ジャンゴタンは大きな部落で診療所と学校があり、8人の小学生が勉強している。学校の横を歩いてジャンゴタンのテント場に到着する。目の前には廃墟になっているゾンの上にチョモラリが聳え立ち、草原にはヤクやロバが歩きまわる、すばらしきテント場である。石組の立派な炊事小屋があり、売店もある。我々が早く着いたためかこの小屋の中で炊事と夕食をとることができた。

4日目 ジャンゴタンのテントで朝焼けのチョモラリが見えるとの声でテント出ると赤く染まったチョモラリが暗い谷間

の上に鮮やかに見える。少しずつ色が変わるので、何枚もの写真を撮る。

今日は当初行動を予定していたが、3日間のトレッキングで疲れもたまって体調が悪い人もいたので田尻、大久保SLとも相談をして休養日とし、それぞれ自由行動とした。峠に散歩に行く人や近所を散策したりして休日を楽しんだ。

5日目 今回の目的の5,000m 峰の登山には大久保さんをリーダーにして正田さん、小林さん、大友さん、橋本さんの5人がテント場のチョモラリⅡから派生している尾根に取り次いだ。尾根にはヤクが歩いた踏み跡がしばらくあるが明確なルートはない。ガイドのカルゲーも同行する。グループは複雑な尾根道のルートに悩まされたが、

4,950m 地点まで登り、十分5,000m の感激を味わった。



チョモラリの氷河湖を目指したのは田尻夫妻と石塚さん、渡辺さんと富樫の5人でパロチューの源流を目指し、川筋を1時間歩く、その先に氷河が作った平な地形の河辺に到着。そこはヤクの放牧地になっていて約40頭のヤクが草をはんだり砂遊びをしている。さらに登ってから10mほどのモレーンの壁を登って上にでると氷河湖が見え、チョモラリの氷河の末端が見下ろせる。高度は4,270mを示していた。

2時間でテント場に帰り、ビールで乾杯をする。

6日目 今日も快晴でチョモラリが美しい。パロに向けて下山のトレッキングを開始する。タンタンカのキャンプに着くとすぐに焚火を起し、残り4本のビールをいただき、歌を歌うが歌詞を思い出さず悲しい思いをした。

7日目 今日の日程は歩行時間が長く高低差もあるので大変である。8:30に出発して予定の6時間では到着できず7時間かかってしまった。紅葉は常緑のカシヤカラマツ類が多く、紅葉はあまり望めない。落葉の中をロバに追われたり、単調な山道を下る。しかし、帰りの方が余裕があり周辺の山のスケッチもたくさん描けた。

テント場はシャナキャンプの少し手前で草原の静かな場所でテントは我々グループだけの貸し切りである。

夕食後焚火を起し、ブータンと日本の歌合戦をする。ブータンの若者はたくさんの歌を歌って踊ってもくれたが我々の方は続かない。それでも焚火を囲んでの楽しい時間を作ることができた。

8日目 今日快晴で今日の日程は短いので朝はゆっくりと朝食を楽しむ。コックや馬方とは今日でお別れなので我々と彼らに並んでもらい楽しかったトレッキングのお礼と感謝のスピーチをする。チェックポストでエトメ社のバスに乗り、途中でドゲルゾンを見る。城塞の上からチョモラリが見えた。今夜はパロ泊になる。

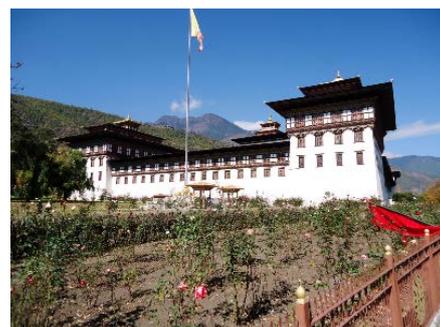


●11月4日から帰国へ

バスで首都ティンプーに入るが2003年に来た時に高速道路の建設を開始していたが、その道路が出来ていてその周辺には大きなブータン建築ラッシュで驚きの一言である。交通量も多いが、相変わらず信号機がない。これだけ多くの車が信号機無しで交通が維持されていることは素晴らしい。王宮を少し見てタシチェジンの内部をカルゲー兄弟の案内で見学する。

翌日バスで、ドチュラ峠に登りブータンの7,000m級の山を見に行くが雲が多く良く見えず、ティンプーに戻りターキン動物園に行くが希少動物のターキンは現れず。市内観光をしてパロに戻る。

パロの博物館は休館で見れず。ブータン建築の農家を訪問する。1階は家畜小屋で2階が居住区、3階は穀物のカラスムギが貯蔵され、大変に大きな建物であった。国技の弓の競技場を見る。ガイドのガルゲーと弟にお礼を述べ一路パロ空港



に到着。チケットの手配や出国の手配をあわせて予定の飛行機でバンコク経由で日本に帰る。

今回のトレッキングは、出発前の健康管理や高度順化と現地での調整が順調で、4,000mのチョモラリBCへのトレッキングでほとんど問題がなく快調であった。隊員の普段の努力とトレッキング中の健康チェックで無理なく行動することができ、良き仲間意識も生まれ、最後は皆さんが目的を果たし、全員笑顔で帰国できたことは何よりでした。

忘年山行報告(平成24年12月8~9日)



天覧山頂上

1日目。大宮発のマイクロバスに会員が鶴ヶ島・飯能で合流して、能仁寺から天覧山、多峰主山に登る。木の葉舞い散る雑木林を下り、待っていたマイクロバスで飯能市内の蔵元(五十嵐酒造)に寄ってから吾野にある「あじさい館」へ。講演会で4人の方からお話を伺った。

- ・エベレスト登頂報告(大山会員)
- ・昔の登山の話(藤野会員)
- ・スマトラのクリンチ山登頂(田尻会員)
- ・ブータンのトレッキング(富樫会員)



大山会員による「再びエベレストへ」

お楽しみの忘年懇親会では皆さんの自慢品の出品があり、「花の本」(山下会員)・「ブータンスケッチ」(橋本会員)・「芸術写真」(稲越会員)が優秀賞に、「吉永小百合さんとの学芸会の写真」(高橋会員)が特別賞に選ばれた。

2日目。マイクロバスで途中西武秩父駅に寄って当日参加の会員を乗せて、登山口の長沢へ。ここから群馬県境の父不見山(ててみえずやま)に登った。途中案内標識を信じて大回りをしたが冷たい風が吹く中を凍えながらも無事山頂に着くことができた。群馬県側の赤久縄山・オドケ山・御荷鉾山、埼玉県側の城峰山がよく見えた。



父不見山頂上の「三角天」

今回の登山は「清掃登山」も目的だった。天覧山は公園のような山、父不見山は不遇の山だが、それでも大きなビニール袋1つと、缶・ビンの袋など成果があったことを報告する。(以上、鈴木捷夫会員の記録を参照して広報でまとめた)

50山ラリー実施状況

●2012.12.8-9(忘年山行) No.43 天覧山(197m)

大宮・鶴ヶ島・飯能→(マイクロバス)→登山口(能仁寺)→天覧山→多峰主山(三等三角点)→御嶽八幡神社→車道に出る→(マイクロバス)→あじさい館
詳細は本号の「忘年山行報告」を参照方。

●2013.1.19 No.38 No.38 雷電山(418.2m)

八高線明覚駅→登山口→堂山→雷電山→雲河原→都幾川四季彩館→(バス)→八高線/東武越生線越生駅



堂山頂上

●2013.2.2 No.35 陣見山(531.0m)

秩父鉄道波久礼駅→かんぼの宿手前の登山口→虎ヶ岡城址→大槻峠→陣見山→鉄塔脇で昼食→榎峠→野上下郷石塔婆→秩父鉄道樋口駅



陣見山頂上

・写真：山容、魅力、季節感、スケール、コース状況、小屋等

- 支部として考えている取材時期
- ・至仏山、景鶴山についてはゴールデンウィークの時期(景鶴山は原則入山禁止のため残雪期に登らざるを得ない)
- ・谷川岳方面については夏の時期

平成26年度全国支部懇談会 実施概要(案)

支部委員会では次の案を元に具体的検討、実施体制準備をおこなおうと考えております。会員の皆様の検討・準備への参加をお願い致します。

●日時:平成26年10月18日(土)、19日(日)

●内容

事業	日程	場所	ねらい等
講演会	10/18	秩父農園ホテル	山に関する知識・見識を高める
郷土芸能鑑賞	10/18	同上(?)	秩父の文化を理解(予算との兼ね合い)
展示会	10/18	同上	埼玉の山に関する情報提供
懇親会	10/18	同上	会員同士の交流を深める
登山(1)	10/19	両神山	秩父らしい山を楽しむとともに会員相互の交流を深める(マイクロバス×2台予定)
登山(2)	10/19	未定	秩父の里山を楽しむとともに会員相互の交流を深める
宿泊	10/18	秩父農園ホテル	秩父の夜を寛いでいただく
事務局	—	—	参加者の受け入れを円滑におこなう
登山観光相談	H26/5月から	(Eメールによる)	懇談会前後を利用した登山等を希望する参加者への相談窓口

●「50山」の今後の実施予定

実施予定日	山名	備考
2013/3/9	武川岳	
2013/4/21	有間山	総会記念山行
2013/5/11	大築山	
2013/6/1-2	和名倉山	四季の山(春山)
2013/7/6	二子山	
2013/8/3-4	甲武信岳など	四季の山(夏山)
2013/9月	三国山	
2013/11/2	物見山	
2013/12/14-15	未定	忘年山行
2014/1月	未定	
2014/2月	未定	
2014/3月	未定	

(注1)詳細は実施予定日が近づいた時点でホームページやメールなどでお知らせします。

(注2)50山としての山行は2013年度で終了して、2014年度からは新たな100山(2013年度に山行集会委員会で決めると聞いている)をもとに計画予定。

本部から日本三百名山取材の依頼

本部では新版「日本三百名山ガイド」(全3巻、各巻予価2,980円)を山と溪谷社から2014年5月に発行する予定です。ついては、各支部で山を分担(埼玉、及び群馬の一部)して取材することになりました。そのための山行を2013年中に実施することになります。なお取材費は参加者持ちとなります。今後、取材山行の参加者を一般山行と同様に募ることになります。

●埼玉支部が担当する8山

至仏山、景鶴山、武尊山、朝日岳、谷川岳、仙ノ倉山、武甲山、両神山

●取材内容

- ・記事：コース状況、コースタイム、山小屋・避難小屋・トイレ、花の開花状況や樹相の変化、積雪状況(残雪期や積雪期)、その他(歴史、文学、山名考、地形、動植物、温泉、グルメ等)、

●準備日程

日程	検討内容・準備内容
H25/2月	組織体制の検討、宿泊場所決定、登山地・講演・催事内容の検討
H25/2-3月	講演等の打診
H25/4月	支部総会での開催概要説明、協力依頼
H25/6月	日本山岳会総会での開催概要の案内
H25/6-9月	下見登山、宿泊場所を含む視察
H25/10/20-21	静岡での全国支部懇談会に参加
H25/10月	リハーサルとして1泊2日を実施
H25/12月	各事業運営要領検討
H26/1月	募集要項完成、支部事務局担当者会議で周知

第2回自然保護シンポジウム開催

- 主催：日本山岳会埼玉支部自然保護委員会
- 開催日時：平成25年1月26日(水)18:30~20:30
- 場所：浦和コミュニティセンター10階第14集会室
- 出席者：本部・東京多摩支部・千葉支部の自然保護委員会関係者

係者、埼玉森林サポータークラブのメンバにも出席戴いた。

●内容

1. 緑の森づくり活動報告(朝日委員)

- 自然保護委員会「緑の森づくり活動」事業は、平成22年度から始まり、NPO 埼玉森林サポータークラブとのコラボレーションにより実施されている。作業は毎回午前中におこなわれ、午後には自然観察会を実施している。これまでの活動は次のとおりである。
- ・平成22年度 東吾野枝打ち体験参加
11月にヒノキ林での作業を体験。
 - ・平成23年度 第1回森づくり活動(於;緑の森博物館)下草刈り
6月。長い手鎌による下草刈りを初体験。作業後には鎌砥ぎも体験。ちょうどヒメザゼンソウを観察することができた。
 - ・平成23年度 第2回森づくり活動(於;緑の森博物館)下草刈り
9月。幼木に絡まったクズの蔓を除去。午後は緑の森博物館内を散策。ホトギスやツリフネソウなどの秋の花を観察できた。
 - ・平成23年度 第3回森づくり活動(於;東吾野)枝切り
1月。急斜面だがノコギリで枝を一刀で切り落とす快感を味わうことができた。
 - ・平成24年度 第1回森づくり活動(於;緑の森博物館)下草刈り
6月。前年度と同様。午後は緑の森のインストラクターの案内で自然観察。
 - ・平成24年度 第2回森づくり活動(於;緑の森博物館)大雨で中止
 - ・平成24年度 第3回森づくり活動(於;東吾野)枝切り 3月予定
将来は特定箇所を任せてもらって活動したいと考えている。また、埼玉森林サポータークラブには埼玉支部の行事などを案内して結びつきを固めたい。



2. 急がれる埼玉の絶滅危惧種(植物)の保護・育成(高嶋委員)
西欧に Today birds, Tomorrow man. という格言がある。次世代に何事も起こらないことを祈りつつ撮影した絶滅種並びに絶滅危惧種を紹介。



3. 埼玉県の鹿の被害調査と今後の課題(金丸委員)

近年、全国的にシカの個体数が急激に増加し、生息するエリアも年々拡大の一途を辿っている。その分布域拡大には種々の要因があるとされているが、特に埼玉県では秩父地方の産地を中心に分布していたものが、最近では本庄市、飯能市、秩父地域外延部や小川町、越生町、ときがわ町などの丘陵部でも確認されるようになって来ている。しかし、これは埼玉県に限った問題ではなく、シカの生息地には境界がないので、秩父連山を中心とした、東京都、山梨県、長野県、群馬県に跨る「関東山域シカ生息域」は全国でも有数のシカの生息分布密度の高い地域となっている。

「埼玉支部自然保護委員会」では、「山岳会」としての山に対する「知見」と「探查行動力」を活かして、昨年度は山梨県・東京都・埼玉県に跨る秩父連山を、今年度は秩父も「和名倉山」近辺と関東山域シカ生息域の一部である「八ヶ岳連峰」の調査をおこない、秩父山域との関連性を調査した。



出席者からは、各委員の知見の高さや埼玉支部の立ち上りの早さを称賛する声、情報の交換、共同活動に関する意見や感想が得られ、発表者からも、これからの活動への励みとしたいとの意見があり、今後の活動が期待される。また、意見交換の中で陸地測量部から活動状況が話され、断層や地すべりの調査について披露された。

埼玉支部平成25年度年間行事計画(案)

50山の実施計画案(8ページ参照)以外の行事予定です。

月	行事	備考
4	14日(日)ふれあい登山 20日(土)支部総会	埼玉会館
5		
6	8日(土)または9日(日) ハイキングレスキュー講習会 未定 森づくり	緑の森博物館
7		
8		
9	14日(土)・15日(日)三支部合同登山 未定 森づくり	御岳山 緑の森博物館
10	未定 安全登山講演会 (秋冬気象) 未定 秋山(八海山)	
11	未定 自然観察会	
12	未定 森づくり	東吾野
1	11日 新年支部懇談会 25日 安全登山講演会(遭難事例) 未定 自然保護シンポジウム	
2	未定 安全登山講習会(心肺・AED) 未定 スノーハイク	奥日光
3		

(注)最終的な日時・場所などは今後の支部報やホームページ、メールを参照下さい。

埼玉支部の委員会状況

各委員会からの情報です。支部委員会での情報をもとに、支部報前号発行以降の状況を広報委員会で編集したものです。

●総務委員会

- ・会員数1月末日現在で支部会員130名、支部会友7名。
- ・埼玉支部総会は4月20日に大宮の埼玉会館で開催予定。
- ・来年10月に埼玉で全国支部懇談会を開催するための項目をまとめた。なお会場は秩父市の農園ホテルを予定。内容は8ページを参照方。
- ・本部から三百名山の取材について要請があった。内容は8ページを参照方。

●広報委員会

- ・支部報第8号編集
- ・50山のホームページなどを随時更新

●山行・集会委員会

[50山山行]

- ・12月；天覧山、1月；雷電山、2月；陣見山を実施。詳細は7ページ、8ページを参照方。
- ・来年度は次期50山(100山)の選定の予定。

[一般山行]

- ・12月の忘年山行では清掃登山を実施。
- ・2月に北八ヶ岳(北横岳に登山)を実施。

●自然保護委員会

- ・11月に自然観察会を大高取山で実施。
- ・12月に本部・東京多摩支部・千葉支部との意見交換を実施。

施。

- ・1月に自然保護シンポジウムを実施。8ページ、9ページを参照方。
- ・3月23日に森づくり(枝切り)を東吾野で実施予定。

●安全登山委員会

- ・1月に埼玉県山岳救助隊副隊長の講演を実施。
- ・2月に第2回講習会「心肺蘇生法及びAED使用法」実施。
- ・陸地測量部の協力で、3月12日に読図講習(机上)、16日に鐘撞堂山で読図講習(実地)の予定。

●社会貢献委員会

- ・4月14日に官ノ倉山でふれあい登山を実施予定。参加申込を受付中。

埼玉支部の同好会状況

●陸地測量部

- ・3月7日に支部会員による講演会を実施予定。
- ・安全登山委員会の読図講習会で藤野部長と遠山部員が講師として参加予定。

埼玉支部の会員異動(2013年2月末日現在)

入会、退会： いずれもなし

埼玉支部の会友異動(2013年2月末日現在)

入会： 富田容子 K0007

編集後記

第8号は編集人が個人の用事で忙しく、当初の予定より遅くなってしまいました。申し訳ございません。

埼玉支部主催の全国支部懇談会は来年の10月です。秩父で開催することで計画の検討、体制の準備を支部の皆さんと一丸になって進めようとしているところです。更に今年は三百名山の取材分担もあり、これまでの一般行事に加え、取材山行や全国支部懇談会の準備もあって忙しい一年になりそうです。(堀川)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第8号

2013年(平成25年)3月 日発行

公益社団法人日本山岳会埼玉支部

発行者：大久保春美 編集者：堀川清

事務局：〒365-0053 鴻巣市緑町5-16 富樫方

HP：http://www.jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html

Eメール：stminfo@jac.or.jp